

史跡 元興寺塔跡 (がんごうじとうあと)



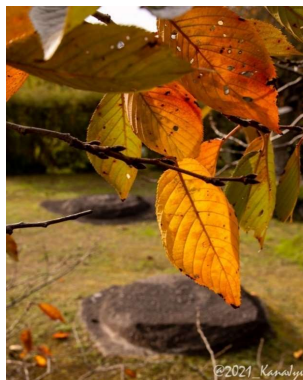
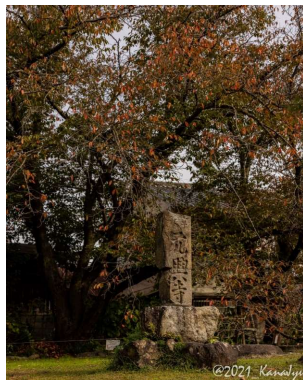
① 歴史・概要

飛鳥時代、蘇我馬子が飛鳥の地に建立した日本で最初の仏教普及の使命を担った官寺、法興寺（飛鳥寺）が前身と言われています。平城遷都に伴って藤原京の大寺が次々と平城京に遷され、法興寺もまた養老二年（718年）に左京四・五条の七坊に建立、元興寺と改められ、引き続き仏教普及の指導的役割を果たしました。平安時代中期以降、元興寺は次第に衰退し、火災などで多くの堂宇が失われ、境内地には民家が建ち並んでいきます。その中で、東塔院、小塔院、極楽坊が三つの寺院として散在する形となりました。

現在の元興寺塔跡は、そのうちの東塔院（五重大塔と観音堂）が安政六年（1859年）に焼失したあと、かつての観音堂を本堂として再建した華嚴宗の寺院です。

② みどころ

天平時代に建立された五重大塔の礎石が17基全て残っており稀少です（国指定史跡）。塔の高さは約49m、江戸時代の「大和名所図会」にも描かれました。また、本堂には、本尊弥勒菩薩、十一面観音菩薩、不動明王（奈良市指定文化財）、千体地蔵などが安置されています。



元興寺塔跡の現状

元興寺塔跡は、令和5年夏に管理者不在となり、通年開門が困難となりましたが、地域の有志の方々やボランティアの方々の尽力により寺域が整備され、拝観の受付も年数回実施されて、その際は美しい境内や庭園、本堂を見ることができます。ただ、檀家がなく、これまで収入源がほとんどなかったこともあり、この歴史ある美しいお寺を将来へ守り、継承していくためにはまだまだ課題が残っています。

元興寺塔跡facebookでは、元興寺塔跡を守る活動の様子、拝観日およびイベントの予定等がご覧いただけます。元興寺塔跡を守る活動に力を貸してくださる方はぜひfacebookからご連絡下さい。

元興寺塔跡
facebook

